

令和6年度旭川未来会議2030 子育て分野 会議録

- 1 開催日時 令和7年2月14日（金） 午後3時30分～午後5時00分
- 2 開催場所 旭川市愛育センター プレイルーム
(旭川市春光2条4丁目2番41号)
- 3 出席者（参加者） ※敬称略，五十音順
飯嶋槇子，楠祐一，熊田広樹，白鳥明子，須和あゆ美，高村小織，
田澤淳子，戸塚義則，中村紋佳，松山奈々，我妻則明
- 4 出席者（市側） 今津市長
(運営事務局)
子育て支援部 向井部長
愛育センター 久保所長，大西副所長，布施副所長，佐々木主査，
宮田
こども育成課 清原係長
(統括事務局)
広報広聴課 吉田課長 乙坂係長 吉岡
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 4名（市民等1名，報道機関3名）

7 会議概要

(1) 概要説明

(事務局)

「遊びから考えるインクルーシブ」をテーマとして率直な意見を頂きたい。今後愛育センターでの園庭整備をはじめとして，運営や地域の方々との関わり，遊びを通した子どもの療育や保育の在り方，またインクルーシブの推進などの参考にさせていただきたい。

(2) 資料説明

(事務局)

資料1により愛育センターの特徴や支援の内容，資料2により愛育センターの園庭の現状とその使用状況について説明。

また，大阪市のハウスメーカーである株式会社アイ工務店からの企業版ふるさと納税の御寄付により園庭の整備を行うに当たり，子どもたちがのびのびと遊ぶことのできる園庭環境やインクルーシブを推進し，地域との連携を図るために御意見を頂きたい。

(3) 意見交換

(進行役)

今回の会議のテーマが「遊びから考えるインクルーシブ」ということで、「遊び」は子どもの成長や発達に欠かせないところであり、実際に子どもたちが愛育センターで遊ぶ姿を見て感じることや、遊びの中からもたらされる効果などの話をしながら、来年度以降の園庭整備について、どのような園庭だと子どもたちがのびのびと遊ぶことができるのかということや、愛育センターが園庭を活用しながら春光地区の方々との関わりを深め、インクルーシブの視点から、地域に根ざし、地域の方々から親しまれるような施設になっていくために必要なことなど、様々な御意見を伺いたい。

(参加者)

小学1年生の長男が重度の知的障がいとてんかんがあり、愛育センターを利用していた。園庭にあるブランコや太鼓橋で運動面が伸び、子ども同士のやり取りを学ぶことができた。一般の公園では遊具の使い方が分からないことや、言葉でコミュニケーションをとれないこともあるので、トラブルにならないような安心して利用できる場があると良い。

(参加者)

脳のことから考えると、幼児期は一番空間認知能力が育つ時期である。けがに注意を払いながら、木登りや回転、高いところから飛び降りることなどにより、空間認知能力や運動能力が育っていく。

子どもの遊びに必要な3間というものがある。時間、空間、仲間である。時間は、大人と子どもの速度は合いにくいですが、子どもと高齢者の時間は合いやすいので隣接する高齢者施設との交流は良い。空間は3次元での遊び、仲間はまさにインクルージョンである。

(参加者)

療育や発達支援は漠然としたものではあるが、大切なのは子どもへの支援、家族への支援、地域への支援の3つの柱になる。高松鶴吉先生は療育とは「丁寧に配慮された子育て」であると言っている。特別な訓練だけではなく遊びを通して子育てを応援することが、子ども支援であり家族支援になる。また、遊びには人と人をつなぐ力がある。高齢者はもちろん小学校や中学校、市立大学や児童発達支援事業所と連携して、人や地域とのつながりのきっかけになるような園庭整備の取組になればと思う。

(参加者)

5歳の息子には発語がなく、指示も伝わることもあれば伝わらないこともあるのだが、視覚を使って確認することを比較的得意としている。子どもたちが分かりやすいような配慮をお願いしたい。

(参加者)

年中の息子は愛育センターの肢体不自由児グループを利用している。介助で歩行でき、最近指差しをして意思表示をしてくれるようになった。

息子が生まれるまでは、子どもは公園に連れていくと喜ぶものだと思っていたのだが、息子は泣いてしまう。愛育センターを利用している子どもや家族の中には、公園でどうやって遊

んで良いのか分からないと感じている人が少なくない。しかし、最近カムイの杜公園にある木製通路の手すりにつかまり、歩いて弟を追いかけて楽しむ息子を見て、公園を巡るのが趣味になった。札幌のインクルーシブ公園ではブランコや手すりへの配慮があり楽しめる。旭川にも歩けない子でも安心して遊べるような場所があると良い。

(参加者)

私の勤務する保育園では夏でも冬でも外で体をいっぱい使って遊べるように、自然を使って昭和時代の遊びができるようになっている。

春光地区の公園は遊具が減り、特に小さい公園では危険だからと撤去されてしまった遊具もある。子どもたちが外で遊べるように遊具が充実してくれたらと思う。

(参加者)

私自身も昭和生まれで木登りや川で遊ぶことが許されていた。子どもの体力低下はカバーしていかなければならない。また、幼児が遊ぶ場所はあるのだが小学校高学年や中学生になると遊ぶところは少ないのでお金がかからずに遊べる場所があると良い。デイサービスでは郊外に出かけることがあるが、ほかの事業所の人と顔を合わせることもあり、遊びに出かけられるところが限られていると感じる。冬だったらチューブ滑りなどがもう一か所くらいあっても良いのではないか。

(参加者)

私の娘はブランコが怖くて乗れない。ふわっとした感覚が苦手だが、ハンモックの周りにクッションを入れて安定させると乗れる。横幅の広い滑り台だと一緒に滑ることができ、また、親と一緒にだとして新しいことにチャレンジすることができる。娘は遊具が得意ではないので、築山や橋を歩いたり、飛び越えること、歩く場所によって音が変わるような場所があると、自分のペースで歩いて楽しめる。歩くことや走ることが好きな子どもも楽しめるようになると良い。

(参加者)

私の保育園では愛育センターとの交流保育をしており、園児はとても楽しみにしている。私の保育園でも園庭整備を昨年から行っており、運動遊びが充実するよう築山を作ることや、3歳以上児だけでなく未満児も楽しめるスペース、静の遊びも楽しめるようなスペースなど、色々なタイプの子どもが楽しめる園庭を作りたいと思っている。木に触れたり、泥場を作るなど、自然な遊びができるようにもしたい。愛育センターの園庭を利用できるのであれば、違ったテイストがあるとお互い楽しめるのかもしれない。

(市長)

園庭整備は完了したのか。

(参加者)

来年は虫のホテルやぶどうの栽培などを計画していて、完成までに3年から4年がかかると思う。工事中は園庭の半分は使える状態にし、全く園庭を使えない期間はないようにして御理解をいただいている。

(参加者)

園庭作りに当たってデザインコンペティションを活用するのも良いのではないか。市民委員会は横のつながりが強いわけではないが、数多くの技術を持っている方もいるので、活用できれば良い方向に行くのではないか。町内会の集まりでも今日の資料や意見を共有したいと考えている。

(参加者)

既存遊具を設置するだけでなく、保護者の方の中にも花や土に詳しい方がいるかもしれないので、皆で作るということが新たな保護者同士のつながりを生む機会にもなる。

(参加者)

植物が得意で好きな近隣の方と、子どもたちが一緒にトマトを植え、育て、収穫を地域の人と一緒にやるのも楽しいはず。

(市長)

知人にも農家並みのプロのような方がいる。

(参加者)

地域の方々に愛育センターを知ってもらいたい機会になり、普段関わりのない方に来ていただく機会にもなる。

(進行役)

愛育センターを知らない方にとってはハードルの高い施設。園庭に来て子どもを遊ばせてみて、「こういう場所なんだ」と知ってもらいたいことも良い。地域の方々に見守ってもらいたい大事なこと。

(参加者)

人手が必要なら育成校の学生に手伝ってもらいたいのも良い。勉強にもなる。愛育センターで学生が活躍して、保育士になってもらえたら良い。こういった施設を知ることや、保護者の方と関わることもできるとても良い機会になる。

(事務局)

児童発達支援事業所の話もしたいと言われていたので、詳しく教えてほしい。

(参加者)

私は2か所の児童発達支援事業所で、幼児から中学生を対象に運動を中心とした発達支援をしている。まずは体力がつき、体力がつくと体幹が強くなりバランスや年齢相応の筋力がついてくる。理学療法士が個別に体操などをさせながら、感覚統合につなげていくようにしている。次に心の面だが、約束や順番を守ることや、その中で社会性や人間関係を構築していくことをしている。身体面と心の面と合わせ、色々な成功体験を積み重ねて、個人差はあるが自己肯定感を高めることを柱としている。自己肯定感が高くなると小さな子の面倒を見られるようになるなど、長く続けていると子どもたちの成長を感じることができる。

旭川には100か所くらい児童発達支援事業所があり、保育園よりも多い。子どもが診断を受ける時期も低年齢化してきており、「発達支援を受けたほうが良いよ」と言われることも

多くなった。旭川地域児童デイサービス等連絡協議会では事業所の質の維持向上が課題となっている。横のつながりを強化していきたいと考えている。

(参加者)

愛育センターには歴史もあり、中心になって横のつながりを広げていくような役割を果たしていけると良い。そのためにも愛育センターを広く知ってもらわなければならない。事業所も増え、医療を必要としている方も多い。

市長に是非知ってもらいたいが、春光台にある旭川子ども総合療育センターは初めて利用しようと思っても1年待ちの状態である。道立の施設なので旭川市のためだけにあるわけではなく、道北圏をカバーしているが、外来は1市8町の患者さんでひっ迫している状況にある。旭川くらいの規模の中核市であれば発達外来のようなものを中長期的に検討していかなければいけない。今困っているのに1年待つ状況は良くない。

(参加者)

小児科の医師が少ない。医師の絶対数が足りない。1年くらい待つのは旭川だけのことでないが、旭川市で言えば市立病院でもっと対応できれば良い。

以前は3歳児健診以降、療育につながる事が主流だったが、今は1歳半健診でも療育に通うようになった。0歳から2歳では子育て支援センターや保育所の方が子どもは伸びると思う。3歳までは診断もつかない。

(参加者)

国が進めている5歳児健診が始まると、更に外来はひっ迫すると思う。

(参加者)

発達障害のお子さんの療育は5歳以降でも遅くない。

(進行役)

時間になったので、最後に市長に本日の感想をお願いしたい。

(市長)

本日は大変貴重な御意見を頂きありがとうございます。市長に就任して3年になるが、かねてよりインクルーシブ遊具の設置を進めてきた。街頭でも何人かの保護者の方からインクルーシブ遊具の設置を進めてほしいという御意見を伺い、忠和公園に設置し、次年度には旭山動物園に設置したいと検討を進めている。私自身も遊びの中で成長してきたことを考えると、今回の整備では子どもたちが元気に成長し、すくすくと育っていける園庭にしたい。やはり園庭を作る第一の目的は子どもたちに楽しんでもらうこと。そのためにも愛育センターを利用する保護者の方からのお話を聞かせてもらい、それを基に、子どもたちが楽しめることを大前提にしつつ、有識者の皆様や施設の関係者の皆様、地域の皆様と一体となって進めていきたいと考える。

これから愛育センターの園庭整備を進め、旭川市は更にインクルーシブ推進に取り組んでいく。改めてインクルーシブという言葉には色々な意味が含まれていることも認識した。貴重な御意見を頂きありがとうございます。

(事務局)

多くの貴重な御意見を頂くことができました。本日お聞かせいただいた御意見は愛育センターの療育や園庭整備などに生かしたいと考えている。

以上で令和6年度旭川未来会議2030子育て分野を終了する。